主な記事
2面　小教区紹介、ひと、典礼奉仕
　　司教館の窓から
3面　若い力
　　諸委員会紹介
4面　医療のともしび
　　教区スケジュール
　　巡礼募集、書籍紹介

カトリック高松教区報

2010年9月5日（第138号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

迫害下でもセミナリオで司祭養成

２回目の結城了雪祭　溝部司教が講演

阿南教会

七月四日、阿南教会で二回目の結城了雪祭が催された。参加者は六十五名。今年は愛媛、高知からの参加者が無くて残念だった。司教様の講演は当時の司祭養成の学校で、中学、高校に当たるセミナリオについてであった。私事であるが、私の母校の校歌に「とわに祈りのあゝセミナリオ」という歌詞があり、恥ずかしながら、五十年経ってやっとその意味がわかった。ラテン語、漢籍、日本文学、仏教、音楽等のカリキュラムが組まれ、進級は能力に応じてであった。セミナリオは、安土から京都、高槻、大阪へと転々と場所を変え、最後は九州へと追われて行った。九州でも隠れるようにあちこちに移転を余儀なくされた。司教様は、劣悪な条件の中で、結城神父のような素晴らしいラテン語の文章が書ける学生たちが出ているのは、驚きであると言われた。ミサの中で阿南教会に安置される事になった殉教者の遺骨の数奇な運命についても語られた。今年も殉教者の歌を歌い、結城了雪祭を終えた。

阿南教会　渡邊康雄

聖堂に安置された殉教者の遺骨

協力し社会問題見つめよう

高松・広島教区合同司祭黙想会

昨年九月広島教区司祭は溝部司教様を講師にお迎えして、湯布院の黙想の家で六日間の黙想を行ないました。そのときに、司教様が来年はぜひ広島教区と高松教区合同で黙想会をしたいとおっしゃり、今回実現に至りました。六月二十一日から二十六日まで宝塚黙想の家で行われ、二十一日の夕食までに集まった高松教区の人たちは、それぞれほぼ顔見知りでした。

黙想会の指導司祭はイエズス会の林神父。右に左に歩き回り、時には動きを止め参加者の目をじっと見つめて問いかける派手な動きと、次から次へと重なるように話が展開していく講話スタイルに最初は戸惑いを覚えました。しかし、毎回出される資料を読み、講話をメモしたノートを読み返すと、ジグゾーパズルのピースが少しずつ埋まり、描かれている絵や写真が形を成してくるように、講話の話の内容や主旨がはっきりしてきました。

テーマは「広島・高松からの炎」。広島教区と高松教区の司祭が神と交わり、また互いに交わり、ぶれない視点で社会情勢や問題を見つめて、協力して神との交わりに導いていくようにと、情熱を持って語ってくださいました。

私が岡山県の笠岡教会で司牧しているせいでしょうか、それとも、大分教区、福岡教区との司祭のソフトボール大会で合同チームを組むせいでしょうか、高松教区はほかの教区よりも身近に感じています。これからも互いに祈り、互いに協力して宣教や司牧のために励んでいきたいと願っています。

広島教区司祭　笠岡教会担当　瀧井英昭

「教区民の集い」に向けての高知地区の取り組み

年３回の養成プログラム

一月三十日の小教区代表者会議の後、二月の合同評議会で地区単位で年三回くらい『養成プログラム』を予定し、中島町教会と江ノ口教会の研修委員と代表者のチームで準備運営していく方向が協議された。その間は小教区単位で、予算・決算の説明会や復活節司教教書の分かち合いを続けた。

高知地区養成コースは、テーマ「どんな教会になりたいのですか?―若者も熟年の方も一緒に祈り考えましょう―」、日時「六月二十日（交流の日）、合同ミサ＝九時半、養成コース＝十時四十五分～十二時半終了」、場所「中島町教会と聖母幼稚園」とのポスターが五月に出来上がった。当日は中島町教会の合同ミサに百人以上参加した。そして養成コースは五十人強が参加。六グループで小教区代表者会議の集いと同じようにKJ法で「信仰」・「共同体意識」・「社会に開かれている」が欠けるとどんな教会になるか?をまとめ、発表した。

その結果「信仰が欠落したら」では、一、信頼の不足、愛の欠如、閉鎖的になり、単なる奉仕団体、キリスト教的価値観の欠如で教会でなくなり、二、自己中心、形ばかり、人間関係が築けない、安らぎが無い、活力が無い、イエス様不在となった。

「社会に開かれていない」では、一、内向き共同体、閉鎖的、偏見、独善、孤立して宣教と愛のない教会となり、二、社会常識に欠ける、社会への場所の提供が無い、高齢者が通いづらい冷たい教会になるとなった。

「共同体意識の欠如」では、独りよがりの信仰、グループ交流なし、経済的にも維持できず信仰が次の世代に受け継がれていかない、二、イエスさまが見えなくなり、対立し、教会が成り立たなくなるとなった。

第二回は夏休み後、九月中に中島町教会で合同ミサと合わせて準備中であり、その後、十月十七日の「教区民の集い」（地区大会）に繋げていくつもりである。

高山右近に学ぶ「宣教」とは

『夜明けの太陽がマニラ湾にマーブル色にとけ込み、その中に船がボーッと浮かんでいる。瞬間、胸に四百年前の高槻城主、高山右近の望郷の念がわき起こってきたのである。思いもよらない体験だった。私は、小豆島に来るまで高槻に住んでいた。そして、小豆島は秀吉に追われた右近が、隠れ住んだ地である。「高山右近は、日本を追放されマニラで客死したんだ！」その右近の望郷の思いが突然わき上がってきたのだ。「一人ではない」と実感した。「高山右近、どうか私のために祈ってください。私の安全を主に取り次いでください」と祈った。』　これは、十二年前初めてフィリピンを訪ね、たった一人で帰国しなければいけなくて必死でマニラ空港に向かっていた時の手記です。その時から高山右近は、身近な存在になりました。司教様の講演での、列福運動の紆余曲折、高山右近の漂泊の人生が語られました。「高山右近は列福などしてほしくはないと思う。」と言われた神父様もおられました。でも、あきらめずになぜ、今高山右近なのか。それは、今だからこそ、高山右近なのだと感じるのです。ともすれば、死ぬことにスポットライトが当たっていた殉教者。でも高山右近はキリスト者として生き抜くことを貫き通された。それこそ、現代が問いかけているカトリックのテーマではないかと。今年司教様は私たちに「三つの問いかけ」という宿題をくださいました。各教会からいただいた答えを見ていくうちに「あらっ」と気になったある言葉。それは、「声かけ。」どの教会もいろんな場面で声かけに努めていました。高山右近の宣教に同様の感覚を覚えたのです。彼は、宣教師のように辻説法はせず、領民の生活を身近に観察し、必要な声かけをしていかれたようです。声かけというのは、まず、やさしく招きいれる行為です。肉親を亡くして哀しみとこれからの不安で立ちすくんでいる農民。そこに孤独な人間の姿があります。同様に、分かち合いでも介護に疲れた信徒の姿、心細げに教会の扉の前に立つ見知らぬ人々へのみなさんの気付きがありました。来年は「宣教大会」です。日本人の幸せを願って一人ひとりに声かけしていったであろう高山右近を思い起こし、私たちもその願いを心に刻んで、「宣教」というテーマに取り組んでいきたいものです。

小豆島教会　日向育子

はばたき

昨年十一月より特養でフィリピン人介護福祉士候補者が三名働き始めている（女二名・男一名）。田舎のため施設近くの空き民家に二人暮らし、また市街地のアパート一間から自転車通い（筆者も同じアパートで単身赴任中。）。

日本語は難しい。日本の蒸し暑さも大変。意志疎通、情報交換がうまく行かず介護もひやりとする毎日。節約をして仕送りをし、インターネットで自国と音信する。勤務で教会に行けないときはネットで現地のミサに参加するという。候補者は三年の研修を経て受験できるのが一回のみである。日本語の難解さからも早急に見直す必要がある。施設は研修者に日本人と同等の給与を提供しているが、運営基準上の職員として算定できない。日本人であれば未資格者でもカウント出来る。インドネシア人、フィリピン人の受け入れが減少している原因はこれだと国会で質疑しても政府は見直しの姿勢すらないという。

七月二十九日厚生労働省は介護福祉士の国家試験について、三年以上の実務経験があるひとの受験資格に二〇一二年度から六百時間の教育課程を追加する方針を見直して、実施時期を十五年度に先送りすることを決めた。介護現場の人手不足に原因があるのか?

現実、共同体、信仰のトライアングル（三角形）に生きることで「現代社会への挑戦」について分かち合う時、昔のユダヤ教からの改宗者と異邦人や今日の介護職における日本人とフィリピン人のような差が無いように、あなたの教会は周りに生きている人々とどのような関わりを持っているでしょうか。

司教館の窓から

司教のひとりごと

社民党党首のＦ氏は、「『選択的夫婦別姓』の定着はライフスタイルにおける自己決定権を持つことである」と主張する。ここまではなるほどと思ったが、そこから、「これによって、結婚、離婚はシンプルな行為になり、同性の結婚もあって当然。不倫による非嫡出児の妊娠や出産も守られる」とまで行くと、どうも納得がいかない。これが「多様な価値観が認められる望ましい社会だ」とＦ氏は論を進める。（広瀬一峰「『選択的夫婦別姓』推進論へのオブジェクション、福音と社会二百五十号」）

夫婦別姓がここまで問題をはらんでいる、とは知らなかった自分を恥じる。

小教区紹介

徳島池田教会

吉野川のほとり　比女性信徒が集う

吉野川のゆったりとした景色と四国山脈を見渡す阿波池田の町。ここにカトリック池田教会がある。

毎日曜日十一時からの主日のミサには八人～十人くらいの外国籍（フィリピン）信徒がやってくる。その中の半数は子どもである。たまに男性の参加はあるが、女性だけの時が多い。クリスマスやご復活でも十五人ほどだ。しかも日曜毎に顔が入れ替わってくるので小教区としての組織化は不可能の状態で、信徒会や活動グループは存在しない。従って、ミサ典礼では聖歌を歌うこともない。ミサの準備なども状況上信徒に託する事が無理なので主任神父のロメオ神父が一人で仕切らざる負えない。全員フィリピン人であるにも関わらずミサは日本語で、朗読と説教だけは英語とタガログ語を並行して使用している。毎月第四日曜日にはミサ後ゆったりとしたお茶の時間がある。唯一、おしゃべりや聖堂の清掃、ロメオ神父との情報交換などが出来る時である。徳島県にある四つの小教区のうちの一つであるが遠く離れた山間の教会の感は否めない。「さびしくて仕方がない」と、こんな小さな小教区の実情も教区民に知って欲しいとのロメオ神父の心情が垣間見える。

谷口広海

ひと　愛媛　松山教会　橘　智恵子さん

伊予万歳と共に７３年

現在、橘さんは７６歳、小さいころには舞台にたてば、おはな（お金を紙に包んだもの）を沢山いただき、小学校の教諭時代はお母さん方と３０枚の衣装を作り子供達に教え、現在も２つの小学校で、また文化庁から郷土芸能継承について委託され校区の公民館でも教えられています。

「子供達はお年寄りの前で伊予万歳を踊り、拍手を頂き、体と心を通して郷土芸能の良さを味わっていると思いますよ。」と橘さんは、笑顔で話されました。松山教会でも１０年ほど前から、伊予万歳白百合会を指導され、老人施設への慰問活動もされています。

伊予万歳は、約３６０年ほど前の寛永年間、徳川家康の異父弟になる久松定行公が尾張万歳太夫を招き、年の始めを祝い、藩士を慰安したのが始まりです。三味線、太鼓、拍子木、歌も唄い、前付役、才蔵に舞い踊りそして後付役才蔵の３つの踊りで構成されています。歌詞には当時の世相、人生訓、家族円満や人々の願いが込められています。戦後しばらくまでは、祝い事、行事には家々から楽器を持ち寄り踊り楽しむ暮らしもみられ、昔を懐かしみ涙を流しながら伊予万歳をみている方もいらっしゃいます。

橘さんは、出会う人々全てに愛情深く接し安らぎを与えてくださっています。また、ドミニコ信徒会で１２年間会長のお役目もされました。橘さんは、沢山の方々に、健康と神様の慈しみと祝福を心から祈っている方です。

東條美紀子

ナミュール・ノートルダム修道女会

発祥と精神

ナミュール・ノートルダム修道女会は、フランス革命後の混乱期にあった社会で、こどもや若い女性の信仰を育み、それに基づく全人教育を使命として、1804年、フランスで創立されました。「神さまはなんて善いお方でしょう！」（Ah! Qui le bon le bon Deu!）」創立者聖ジュリーが生涯かけて伝えようとしたのは「善き神さま」です。私たちナミュール・ノートルダム会員のしるしは、このことばを刻んだ十字架です。人生は悲喜こもごも、様々な出来事に遭遇します。どんな時にも、「善き神さま」のはからいに全幅の信頼を置き、喜びをもって生きる道へ招くため、会員は、日本のほか、世界15カ国で働いています。

日本での宣教

1926年、米国より日本に5人のシスターたちが派遣され、岡山の地でカトリック女子教育を始めました。現在、岡山で幼小大学、倉敷と広島で中高・教会・幼稚園で働いています。都会ではなく、地方での宣教が私たちのミッションです。原爆投下後の広島に、1949年、中高等学校を創立したのはその精神の現れです。

高松教区では

ご存知の方もおられるかと思いますが、以前に高知、徳島でシスターたちが働いていました。徳島では、1972年～1991年まで女子学生寮を、高知では1977年～1983年まで教会使徒職をしていました。約20年ぶりに、またこちらにやって来ました。現在高松市に1名居住し、司教館で働いています。

ひまわりの花は一日中太陽に向かって咲き
陽とともに花もまわります。
純真な人はいつも神中心に行動し
神さまから導きと恵みをいただき
清らかな愛情にあふれるのです

聖ジュリー・ビリアール

『典礼奉仕』のために ⑩

高松教区典礼委員　稲毛利之師

復活を体験する典礼③

最近、教区の典礼委員会の席上で、小教区の典礼上の問題・課題を話し合ったときです。聖書朗読奉仕に話が及びました。そこで神道の祝詞のことを話していたら、「どうやったら、ことばを浄明正直に（きよく、あかるく、ただしく、なおく）話せるのでしょうか？」との声があがりました。

確かに、神道の精神は、〝浄明正直〟つまり、きよく、あかるく、ただしく、なおく（生きる）ということで、実際、祝詞（のりと）は、ハッキリ、明るく、正確に、真っ直ぐに響きます。

さて、先の「どうしたらそのように話せる（朗読できる）のでしょうか？」という問いに戻りましょう。まず、神道にはそのような発想がないでしょう。ですから、神道の人間なら、たぶん、問いに対して、こう返すでしょう。

「決してうまく話そうとしてはいけません。なぜあなたは、ことばそのもの、ことばの力を信じないのですか。ことばがことばを話すに任せなさい。」

私たちが何かことばを話すのではない。何千年も、途切れることなく奉じられ、存在し続けている「ことばの力」に預って、私たちの方がことばによって命を与えられ、変えられ、〝浄明正直〟になっていく―これが祝詞の実践でしょう。これはいにしえからの日本人の心の原像であったはずですが、今日の日本で〝日本人〟は一体どこに行ってしまったのでしょう。

また、最近、静かな座禅ブームがあるそうですが、多くの人が、「どんな時にも役立つ平常心を得たい、培いたい。」ということで座禅に参加？しているそうです。ちなみに、ある禅宗のお坊さんの説明に依れば、座禅は〝非己〟（自己でない何者か）に出会う、触れる為にするものだとの事。諸宗教の智恵から次のことが言えると思われます。

ことばそのものが、私たちの内でことばを語る、ことばそのものの力を現す。あるいは、自己でない何者か〝非己〟に出会い、その関わりを悟る、その関わりの内に生きる。

そのためには、世間的な自己に死なねばならないのでしょう。世間的な信条、世間的な道徳、世間的な宗教に死ななければ、新しいいのち（復活）もありえないでしょう。

私たちの典礼も、自己の思惑、計らいに死に、非己である他者―神と出会う場でしょう。

そして、私たちの典礼は、自分の内に神が働いておられる、語っておられる―その関わりを悟り、その関わりの内に生きるようになっていく―そのためにあるのです。そしてこれが、自分に死んで復活する、外からと上からの恵みの体験でしょう。

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」（ガラテヤ二・十九～二十）

若 い 力

郡中教会　本田新治

私の信仰生活の中で、毎日考えていることが色々あります。

仕事場では、まったくイエス様についての事は話にでないですが、やっぱり色んな宗教の人がいるので中々話しにくいかなというのがあります。しかし、話しにくいと言いましたが、休憩の時や何気ない会話の時に自分がキリスト教信者だと話をした事があるのですが、そんなに抵抗はなかったです。けれど、話した時も周りはあまり興味は持ってはくれなかったです。

今年の復活祭の時、洗礼を受けてからは出来るだけ色々な活動に参加するようにしてますが、仕事の関係でなかなか出来ない事も多いです。洗礼を受ける前からも色々行事には参加して勉強してましたが、どのように自分の信仰を広めて行けばいいのかが分からなくなったりします。周りを見れば色々な所に行かれて、色々な場所で自分の信仰を広めて行かれている方もいますが、今の自分では無理だと思いました。なので、これからは今まで以上に出来るだけ教会に行くようにしたり、参加出来る行事には必ず参加するようにして周囲がどのように自分の信仰を広めているのかを見て、それを参考にして出来る所からやっていけばいいのではないかと今の生活の中で私が感じている事です。

元気を出そう中高生ミサ

サレジオ志願生と交流　召命のためにも

７月１８日(日)中島町教会にて「元気を出そう中高生ミサ」が行われました。サレジオ志願生の中高生をお迎えし、彼らのコーラスや楽器演奏でミサを活気づけ、地区の中学生が司会進行する中、サレジオコーラスの素晴らしい歌声を聞くことができるとても良いひとときとなりました。その後の昼食会では、サレジオの中高生と四国の中高生との交流も深まり、和やかな雰囲気となりました。振り返ってみると、四国内の中高生を元気づけるだけでなく、参加したお年寄りにも好評で、希望を持ってもらえるひとときとなりました。

四国の中高生を元気づけてもらい、召命へのきっかけにもなるようにと毎年開かれ、今回で５回目を迎えます。当日は中島町、江ノ口、赤岡、安芸、中村の５つの教会と、英語のミサも合同で行われました。天使園の中高生や四国からの中高生も含め、約１７０名の参加がありました。ミサ後のプログラムでは、高知

高松教区諸委員会紹介

エキュメニズム委員会

二〇〇九年五月の司祭評議会で、溝部司教は高松教区にエキュメニズム委員会を設置し、初代委員長にネルソン神父を任命した。準備期間を経て各地区から推薦されたメンバーと司教任命メンバーとで九月十五日に第一回委員会を開催した。第二バチカン公会議のキリストの原点に戻るという立場から長い分裂の歴史を踏まえ、多様性を尊重しながらキリスト教一致のために祈り働く為である。まず故ヨハネ・パウロ二世の回勅「キリスト者の一致」を読んだ。二回目以降の委員会では一致の必要性と問題点を分かち合いながら各自の地区のエキュメニカル活動の現状を調べ報告し合った。その結果、この委員会の当面の役割を次の二点とした。

☆信徒のキリスト教一致への意識を高める。

☆各地の現在の活動の支えと推進、そして新たな立ち上げの支援。

現在の具体的活動は

一、「キリスト教一致祈祷週間」の奨励。今年一月には愛媛と香川地区が集会を計画し、延べ二百余名のキリスト者が共同の祈りと交わりの場を体験した。

二、世界祈祷日（三月五日）の実施調査。高松、坂出、徳島、高知、松山での実施を確認。

三、朝祷会の推進。四国では五地区が実施している。毎年三月二十二日に四国大会（各県持ち回り）を実施。

全小教区に案内状を送り、参加を促した。

今後の活動として

一、クリスマス行事における一致の推進

○合同クリスマス会

○合同クリスマスキャロリング

二、朝祷会内容紹介開始への支援。エキュメニズムへの意識を高めるため

○「キリスト教一致祈祷週間」中の主日に司教司式ミサを中心としたイベント（於カテドラル）を実施する。

○「エキュメニズムに関する教令」に関する講演会を開催する。

長い分裂の歴史を乗り越えるのは決して簡単ではない。しかし聖霊の導きと力に支えられ、祈りと忍耐を持って歩み続け、キリストの望まれる一致の実現を目指している。

ちょっと ひといき

ちがう

徳島教会　高田芙美

ちがう　ちがう
何かがちがうと叫べ
天のみ心が行われるようにと
心底から叫べ

何もかも
人間が狂わせているのだ
神の子といわれる我らが
ちがう　ちがう
何かがちがうと叫ぼう

「神様の愛の火」より

歌っていくほど心に良い糧をあたえてくださる

第一回溝部司教杯聖歌合戦に参加して

徳島教会　桑原稔実

この度の記念すべき聖歌合戦での受賞は、本当に喜び一杯です。

桜町教会御聖堂で聖霊が私たちに注がれ、本当に気持ちよく歌うことが出来ました。あの時の感動を忘れず今後も神様からの御声を心静かに受け止め、祈りのうちに皆で歌っていきたいと思っています。

司教杯のおかげで聖歌隊ができました。短い練習時間ではありましたが、とにかく今回は深く言葉を理解し、丁寧に歌っていこうと決めていました。なぜならば、私達はカトリック信者です。聖歌からのメッセージは、とてもよく理解することができ、歌っていくほど心に良い糧をあたえてくださると信じていたからです。普段は何気なく歌っている曲も強弱をつけることによって、また速さを微妙に変えることによって歌の意味は生きてくるのです。今回私は、ここは教会だから優しく指導していこうと決めていましたが時々そのことを忘れ厳しくなったかもしれません。メンバーの皆さん大変でしたね。

そして、御聖堂と伴奏用楽器の下見の為にご一緒いただきました伴奏者の岡田さんに感謝します。

あの日、他のグループの方々の歌声を聞くことができ、今日ここに参加してよかった、カトリック信者でよかったと神様、司教様に感謝しました。

また、明日から練習です。徳島地区の皆さんご一緒に歌いましょう！受賞以来一度も練習していないので（？）皆さんスタートラインは同じです。歌を楽しみましょう！

司教杯授与

善通寺聖母幼稚園

〒765-0011
香川県善通寺市
上吉田町4丁目9-24
TEL:0877-62-1087
FAX:0877-62-9962
E-mail
zentsujiseibo@aria.ocn.ne.jp

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもを
まなび、護りましょう

暁 の 星 学 園

鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

高松塾

高山　徹

私はこの四月より、高松司教館にて生活させて頂いています。司祭召命を考える者として、〝識別〟の時を頂いています。司教様が〝高松塾〟と称される集まりの一期生とでも言えましょう。

三重県生まれですが、東北地方で学生と教員の生活を経験しました。溝部司教様が仙台教区司教であられた頃、司教様の元で沢山の人々との出会いと交わりを頂きました。召命について考えるようになったのはその頃からです。

今こうして高松司教館で生活させて頂いて、日々素晴らしいお恵みを頂いています。そのお恵みは、司教様や神父様はじめこの会館に集う皆さまと共に生活をさせて頂く中で、じんわり感じます。皆さんが一致協力し、そして私に心をかけて下さっているのが大きいです。携わらせて頂いている教会活動や高校非常勤職においても、この生活で頂いた恵みが活かされているのを感じます。教区外の友人に現況を話すと、「み旨を求める者にとってこれ以上の環境はない」と羨ましがられます。

溝部司教様は、仙台におられた頃によく、「全ての出来事、出会いを信仰の恵み、糧としなさい」と私達におっしゃいました。また、「識別は、頭ではなく、現実の生活の中で行う」ともおっしゃいます。そうしたお言葉や日々頂く全てのものを全身で受け、開かれた心で少しずつ歩み・決断していきたいと思っております。どうか未熟な私と、み旨を求める全ての青年のためにお祈りください。

医療のともしび（22）
ゆだねるという事

毎月数名の方に訪問診療をしている。先日、８０代御婦人の所を訪問すると、えらく落ち着いておられるように見えた。御主人が肺炎で入院され、主治医に「何があってもおかしくない」と宣告されたとのこと。御自身も大腿骨頚部骨折がきっかけで要介護者になられたのだが、つい最近までお二人で庭先まで出ておられたのに大変だなと思っていたところ、彼女がポツリと漏らされた言葉に、はっと驚かされた。「寿命に任さないかんな。もう６０年も連れ添ったんやから。」と本心から言われた言葉だからだ。勿論、ここに至るまで色々葛藤も有ったのだろうが、私に医学的な事は何も聞かれず、主治医と担当ナースがよくして下さるからとだけ続けられた。つい、み旨のままにと、如何にも悟ったようにいってしまう自分が、本当に恥ずかしく思われた。

忙しさにかまけて祈ることを忘れると、過去を後悔し、未来を不安視する思考回路に陥る。時間に追われる。いろいろな事が気になる。信仰を得たのもそんな私を神が選んで下さった結果だ。「何も恐れることはない、わたしに付いて来なさい。」という声に従えばいいのだ。そして、今をしっかりと生きることに尽きるのだろう。そこに、ゆだねるという心もおのずと湧いてくるように思う。患者さんから救われる事は多い。

聖心会阪本病院　院長　阪本一樹

マリッジ・エンカウンター　～松山～
ウィークエンドが開かれる

７月１７日から３日間、聖カタリナセミナーハウス（松山市）において、マリッジ・エンカウンターウィークエンドが開催され、４組のご夫婦とお二人のシスターが参加されました。高松教区内では３年ぶりです。

夫婦の関わり、周りの人たちとの関わりを見つめ直し、結婚生活の神秘とお互いの深い絆を実感しました。

高山右近列福祈願公式巡礼の旅
～溝部司教とたどる右近の道～

Aコース　日本国内「高山右近の足跡を辿って」
日程　１１月５日（金）～８日（月）
費用　大阪（伊丹）発　￥118,000
　　東京（羽田）発　￥136,000
申し込み締切　９月１７日（金）

B-１コース　マニラ「高山右近祭参列と右近ゆかりの地を辿って」
日程　２０１１年２月２日（水）～５日（土）
　　【B-２コースは６日（日）まで】
費用　大阪（関空）発　￥138,000　【B-２　￥155,000】
　　東京（羽田）発　￥145,000　【B-２　￥162,000】
　　申し込み締切　１２月２日（木）

B-２コース　B-１コースにセブ島訪問が加わり、２月６日（日）まで
詳しくはカトリック新聞（７月１８日付）または申込書をご参照ください。

申し込み・問い合わせは
ISAトラベル
フリーダイヤル
0120-724530
TEL　03-3278-0305
FAX　03-3278-0395

団長：カトリック高松教区　溝部脩司教
　　（列聖・列福特別委員会委員長）
後援：日本カトリック司教協議会列聖列福特別委員会
　　カトリック大阪教区
　　カトリック高松教区

高松教区事務局長・西川助祭と行く
モーセとイエスの足跡を訪ねて

日程　１１月２日（火）～１３日（土）
費用　￥375,000
申し込み締切　１０月１日（金）
主な訪問先（関西空港発着）
　シナイ山・ガリラヤ湖・エリコ・カナ・ナザレ・エルサレム，ベツレヘム
詳しくはチラシをご参照ください。

申し込み・問い合わせは
パックス インターナショナル(株)TEL 03-3561-0755　FAX 03-3561-0759

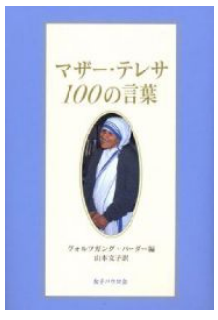
教区スケジュール

9月
５日（日）年間第２３主日
７日（火）司祭評議会 10:00
８日（水）聖マリアの誕生
　生涯養成委員会 11:00
　香川宗教者平和懇話会 16：00
１０日（金）日本205福者殉教者
１２日（日）年間第２４主日
１４日（火）十字架賞賛
１７日（金）宣教司牧評議会 13:00
１９日（日）年間第２５主日　教区拡大典礼委員会 14:00
２０日（月）敬老の日
　３教区合同ホームページ講習会（大阪玉造）
２３日（木）秋分の日
２４日（金）深堀敏司教命日
２６日（日）年間第２６主日「世界難民移住移動者献金」
２８日（火）トマス西と１５殉教者

１０月
３日（日）年間第２７主日
５日（火）一日司祭集会「社会問題」 10:00
　司祭評議会 15:00
１０日（日）年間第２８主日
　長崎四番崩れ訪問団（～１２日）
１１日（月）体育の日
１７日（日）年間第２９主日　高知地区「教区民の集い」
２０日（水）生涯養成委員会 13:15
２４日（日）年間第３０主日　愛媛地区「教区民の集い」
３０日（土）女性委員会 13:00
３１日（日）年間第３１主日　香川地区「教区民の集い」

新刊書籍紹介

■ マザーテレサ１００の言葉



ひとりの女性の言葉、それは口よりも行為をとおして、手と目で語られた言葉です。
端的に一言葉、それは満たされた、勇気ある、そしてひたむきな生涯を語ります。
そのような言葉は、ごく少数の人間が口にすることのできるもの。マザー・テレサはそのような人のひとりです。（「編者の言葉」より）
ヴォルフガング・バーダー 編　山本文子 訳
B6判　上製　112ページ
定価1260円　女子パウロ会発行

■ ガリラヤへ（新たな出会いと出発のキリシタン史）

そこに行くと大切な人に出会える。懐かしい風景がよみがえってくる。新たな自分を発見する。明日が見えてくる。歴史をたどり始めた時人は巡礼者になる。ザビエルからド・ロ神父までのキリシタン史をたどりながら、既知の者との新たな出会い、信仰の遺産の確認、信仰者の役割などを「黙想」という独自の方法で提示する。
まるちれす研究会 編・著　溝部脩 監修
A5判並製　オールカラー180ページ
定価1050円（本体1000円＋税）　ドン・ボスコ社

編集後記

この夏は特別に暑かった。連日の熱暑に人が悲鳴を上げている。しかしこの悲鳴のもとを作っているのも他ならぬ我々人間である。デフレスパイラルという言葉があるが、こちらは環境破壊スパイラルということか。神様からの贈り物であるこの自然を生かすのも人の使命なのだが。

内　科　胃腸科　循環器科　放射線科
医療法人 翼 医院
Tsubasa Cl.
高松市茜町16-12 ☎(087)837-5800

医療法人社団聖心会 阪本病院
看護師・准看護師
随時募集中です！
院内保育園開設

ご連絡を
お待ちしています。
連絡先（事務局）
0120-770-315